

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 田村 義和
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

注目のカタカナ語を自分のものにしよう！

利根教育事務所長 田村 義和

先日ある先生から聞いた話ですが、ICT（情報通信技術）の利活用について情報教育担当の先生から説明を聞いていたとき、コンテンツやクラウドなどカタカナ語が連発されたので、「カタカナ語をそんなに使わないで簡単に説明してほしい」とお願いしたそうです。ところが、「カタカナ語を使わないで、これ以上簡単に説明できません」と言われ、ついていけない自分に愕然としたそうです。私も笑っていただけませんでした。

この頃は、文部科学省の事業等でも、あまり聞き慣れない「エビデンス」(注1)や「ダイバーシティ」(注2)などのカタカナ語も使われています。私の場合、どうもカタカナ語を聞くと「かっこつけてる」とか「わかりにくい」と思ってしまう、理解が進まなかったように思います。

それぞれの業界では、カタカナ語に限らず、当然理解して使いこなしていかなければならない言葉や「こと」があります。カタカナ語を使うのは、その「こと」が元々外国にあった考え方で、それを日本に取り入れたからとか、強調して印象づける効果があるとかの理由からだと考えられます。もっと前向きに受け入れて理解を深めればよかったと反省しています。

今、次期学習指導要領の改訂に向けて「アクティブ・ラーニング」が注目を集めています。今回の改訂において大変重要な言葉です。教育に携わる私たちは、この「こと」について理解を深め、自分のものにしていかなければならないと思います。

それには、私たち自身が、目の前の子どもをしっかり見つめ、自分の指導の実際を分析し、今年8月に公表された「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」等を基に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に取り組んでいくことが大事だと思います。私たち自身が積極的に議論し、みんなで問題を解決していく姿勢を一層高めることが大切だと思います。

注1：エビデンス（証拠、証言＜大辞林＞）

注2：ダイバーシティ（多様な人材を積極的に活用しようという考え方。＜ナビゲート ビジネス基本用語集＞）

学校教育係 個の考えを広げ深めるための小集団による話し合いの充実に向けて



学力向上
CO

小集団による話し合いを充実させるために、どんな工夫をしていますか？



学級担任

事前に自分の考えをしっかりと持たせてから話し合わせています。でも、個の考えが深まらなくて、どうするとよいか悩んでいます。

事前に考えをもたせることは、小集団の話し合いに全員が参加できるし、多様な考えに触れさせられるので、大変効果的ですね。個の考えを深めさせるためには、【話し合いの方向性】をはっきりさせることが大事です。そのポイントを紹介しましょう。



小集団による【話し合いの方向性】を、はっきりさせるポイント

ポイント 1 「ねらい」に応じて【話し合いの目的】を明確にする。

ポイント 2 【話し合いの目的】から【具体的な方法】と【まとめ方】を設定する。

【話し合いの目的】(例)	【具体的な方法】(例)	【まとめ方】(例)
A 整理する B 順位付けする C 付け足す	ア 類型化する イ 組み合わせる ウ 示された観点で比較する エ いくつか選ぶ オ 新たに気付く	①「個」で考えを整理 ②「班」で考えを集約

ここでは、C - オ - ① で行った実践例を紹介します。



【小学校第3学年国語】「モチモチの木」

＜設定する言語活動＞ 「モチモチの木」をリーフレットにまとめ紹介する。

＜本時のねらい＞ リーフレットにまとめるために登場人物の性格を考えることによって、根拠となる叙述を明確にしなが、想像して読むことができる。



3年担任

本文中に豆太の性格が想像できる叙述が複数探せるので、たくさん気付かせたいな。2色の付箋紙を使って、人物像に関する考えの広がりや深まりを実感できるようにしよう。それをもとにして、新たに自分の考えをまとめさせよう。

■ 「豆太」の性格が分かる叙述を探して青い付箋紙に書き、学習シートに貼る。

個

話し合いの方向性

班になって順番に意見を発しましょう。友達の意見から「そうだな」と思ったこと(オ)などを「赤い付箋紙」に書いて、自分の学習シート(①)に付け足し(C)しましょう。



小集団の話合い

児童A: 私は、夜中に一人でせっちんに行けないから「おくびょうもの」だと思います。

児童B: 私は、ぐっすり眠っているじさまを起こしているから、豆太は「おくびょうもの」だと思います。

児童C: 私は「いばりんぼう」だと思います。理由は、屋間は「笑い、落とせえ！」と、いばってさいそくしているからです。

児童A: そうか、C君の言うとおり、「いばりんぼう」のくせに、「おくびょうもの」なんだわ。

児童Aの学習シート例

「いばりんぼう」 (赤)

「おくびょうもの」 (青)

大きなモチモチの木をこわがっているから。 (青)

夜中に一人でせっちんに行けないから。 (青)

ぐっすり眠っているじさまを起こしているから。 (赤)

「えー」といばってさいそくしている。 (赤)

屋間は、「笑い、落とせえ！」と、いばってさいそくしている。 (赤)

■ 学習シートを見直して、話し合いで広がり深まった考えを書く。

友達の意見を聞いて、「おくびょうもの」の理由はほかにもあることが分かりました。あと、「いばりんぼう」というのは気付かなかったので、なるほどなあと思いました。



■ 全体場で考えを発表し、新たな考えに触れる。

■ 学習を振り返り、登場人物の性格や気持ちを考えるときに注意したいことを書く。

個

斉(個)

小集団の話合いで、方向性の示し方がよく分かりました。

次から、【話し合いの目的】、【具体的な方法】、【まとめ方】をはっきりさせて進めます！

